

アンケートによる家庭での歯磨きの状況について

○高見 由佳

たかみデンタルクリニック

【目的】 小児の口腔内の育成において、家庭における歯磨きが重要であることは広く一般に知られているところである。今回、西都市における1歳半児健診と3歳児健診において事前に保護者に記入してもらったアンケートの歯磨きの状況についての調査結果と、当院に来院した患児の家庭での歯磨き状況の調査結果から、家庭での口腔内管理の指導のあり方を検討したので報告する。

【対象および方法】 平成18年度から平成20年度に西都市の1歳半児健診と3歳児健診を受診した児童の保護者と当院に来院した患児及びその保護者に対するアンケート結果から歯磨きの状況の調査を行った。

【結果】 平成18年度1歳半児健診の受診者264名で仕上げ磨きを就寝前に行っているのは151名。3歳児健診の受診者255名で仕上げ磨きを就寝前に行っているのは171名。平成19年度1歳半児健診の受診者246名で仕上げ磨きを就寝前に行っているのは130名。3歳児健診の受診者273名で仕上げ磨きを就寝前に行っているのは192名。平成20年度1歳半児健診の受診者257名で仕上げ磨きを就寝前に行っているのは175名。3歳児健診の受診者260名で仕上げ磨きを就寝前に行っているのは166名であった。当院に来院した4歳以下での結果は、28名中22名であった。

【考察】 西都市のむし歯有病者率は、1歳半児では、4.5%以下だが3歳児では40%を超えている。一方、仕上げ磨きをしていると答えた家庭は、3歳児においては94%以上である。このことから、仕上げ磨きが効果的に行われるように家庭での歯磨きの方法や道具の選び方の指導を早い時期から定期的に行い、就寝前の仕上げ磨きを習慣づける事が大切だと考えた。

「某少年更生施設入所者の口腔内所見とアンケート結果」

○松本 晋一

松本歯科医院 / 熊本小児歯科懇話会

【目的】 数年前より少年更生施設の要請を受け、不定期に入所者の歯科検診、応急処置、保健講話に向。その時の検診と保健アンケート内容を今後の検診体制、矯正教育活動への“パイロット調査”として集計、基本資料とした

【対象】 平成20年10月～平成21年2月間の入所者約120名中、出所準備期の者で歯科検診者35名、歯科保健アンケート回答者42名、平均年齢18.6歳

【方法】

1) 検診はう蝕罹患状況を中心に室内照明下の視診による口腔診査

2) アンケートは「社会人なら歯が命」と題する講話直前に配布、受診

経験、現症、出所後の歯科対応や希望等を自己記入

【結果】

1) う蝕罹患状況と事後措置

検診対象者の平均現在歯数は29.8歯、健全歯数は21.9歯、未処置歯は5.1歯、処置歯は2.9歯、喪失歯率は0.1歯である。未処置歯率では17歳が22.9%と高く、20歳では10.7%、処置歯率では18歳が12.9%と高く、次いで17歳11.8%、16歳9.2%であった。う蝕の進行度に応じて6項目のう蝕評価基準表を設け事後措置と対応させた。対象者35名を本表に当てはめると5名の健全者は1年後に定期検診、要観察者は0名、14名の軽度う蝕者は1年以内の精密検査、中程度う蝕者10名は6カ月以内の治療、6名の重度う蝕者は1か月内に早急の治療を要する者と判定された

2) 保健アンケート結果

対象者の86%に歯科受診経験あり、内容はう蝕処置が主。現在の症状ではう蝕症状11名48%、歯周病症状が6名26%、歯並びや咬合が4名17%であった。生歯数の自己認知度は20～35本が21名55%。薬物使用経験者は48%、同経験者感想では歯が弱くなった、歯が溶けるの認識を持っていた。歯や口が役に立つ理由は咬む、食べるが15名40%、話す6名16%、人と接する好印象9名21%で社会的な機能を認識。顔にプラスのイメージを持つものは4名(10%)とわずかであったが、逆に歯の治療やエステの希望がある者は31名(74%)と多くを占めた